

平成29年度 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業  
(特別支援教育の視点を踏まえた学校経営構築研究開発事業)  
成果報告書

実施機関名 ( 嬉野市 )

1. テーマ

組織として特別支援教育を充実させていく学校経営の在り方の研究  
～発達障害に関する教職員の理解と専門性の向上を目指して～

2. 問題意識・提案背景

嬉野市は、佐賀県南西部に位置し、お茶と温泉で全国的にも有名である。指定校である嬉野小学校・嬉野中学校は、市内で最も児童生徒数の多い小学校、中学校であるため、さまざまな問題を抱える家庭環境にある児童生徒も多い。

現在、本市で発達障害の診断を受けている児童生徒、または保護者が発達障害ではないかと申し出ている児童生徒の合計は121名(5.9%)で、5年前の51名(2.2%)と比べて2.4倍に増加している。また、担任等の気付きにより、複数の教員が発達障害の傾向があると考えられる児童生徒はさらに58名(2.9%)となる。さらに、特別支援学級に在籍する児童生徒の割合は、平成21年度1.9%であったが、現在は4.1%と2倍以上に増えている。しかしながら、市内の小・中学校教職員のうち、特別支援学校に勤務経験のある教職員は198名中12名(6.1%)、また、特別支援学校教諭免許状の保有者は21名(10.6%)と決して多くはない。このように支援を必要とする子供の増加に、教職員の意識や経験が追いついていない現状があり、教職員の特別支援教育の専門性の向上は急務の課題となっている。

そこで、校内、校外での研修を充実させ、特別支援教育に対する理解を深め、専門性を身に付けるとともに指導力の向上を図り、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の展開など、学校全体で組織として対応できる体制を構築したいと考える。

3. 目的・目標

発達障害に関する教職員の理解を深め、指導の専門性の向上を図り、学校が組織として特別支援教育を充実させることを目的とする。

【目標】

- (1) 特別支援教育に係る学校経営を構築するために必要な方法を探る。
- (2) 組織強化を図るため大学教授等の専門家を活用し、学級経営計画を策定する。
- (3) 学習上又は生活上困難のある児童生徒に適応した教育を意識した取組を行う。
- (4) 校内及び校外における研修を充実させ、教職員の専門性と指導力の向上を図る。
- (5) 特別支援教育の視点を踏まえた環境整備と指導方法の工夫・改善を図る。

#### 4. 主な成果

- (1) 特別支援教育に係る学校経営を構築するために必要な方法を探る。

特別支援教育に係る学校経営を構築するためにはまず、指定校の状況を把握し分析することが必要になる。そこで、学校経営スーパーバイザーを配置し、つぶさに学校の状況を見ていただき、問題点を整理した。その結果、特別支援教育コーディネーターの役割を明確に位置づけるべきであることや、校内の特別支援教育実践の中心は特別支援教育コーディネーターでありその職責の重要性が高いことなどが明らかになった。また、コーディネーターを支える周りの教職員が、しっかりと特別支援教育への理解を深めたうえで、協働できる体制が取られるべきであることから、職員研修の充実させることの重要性を学ぶことができた。

- (2) 組織強化を図るため大学教授等の専門家を活用し、学級経営計画を策定する。

指定校である嬉野小学校の年度当初の学校経営計画には、特別支援教育の推進が「一人一人のニーズに対応した個別指導の充実」という項目で掲げてあり、教職員の意識を向上させ、特別支援教育の充実を図り、支援が必要な児童への支援体制を確立するという具体的な項目が明記されている。本事業の有無にかかわらず計画に盛り込まれていたことになるが、嬉野中学校では、特別支援教育の推進についての項目はない。学校によって意識の差があることを感じた。そこで、学校経営スーパーバイザーが訪問し、指導・助言を行うことで、管理職を含めた教職員の意識が変化してきている。特別支援教育の視点を踏まえた来年度の学校経営計画は、2月から3月にかけて作成することになっているため、現段階では策定されていない。

- (3) 学習上又は生活上困難のある児童生徒に適応した教育を意識した取組を行う。

障害のある子供たちが自立し社会参加するためには、一人一人の障害の状態等に応じた適切な教育や必要な支援を行うことが重要であり、障害のある子供の教育について教職員が正しい理解を深めるようにする必要がある。また、通常学級であっても多くの子供にとって、わかりやすい、学びやすい授業をデザインしていくことも大切になってくる。そこで、授業のUD化を進める研究を始めた。まだ、教職員の意識付けを行っているところであるが、授業のUD化の要素を見つけ出し、教職員が意識せずに行っているUD的な授業の工夫を意識化することができた。教職員にとっては、「UD化するには何をすべきなのか」というイメージを持つのに役だった。

- (4) 校内及び校外における研修を充実させ、教職員の専門性と指導力の向上を図る。

校内研修の場で、学校経営スーパーバイザーの講義を行い、現在の学校が抱える課題は何かを教職員が認識することができた。それまで気づかなかったことを指摘してもらうことができ、教職員の研修の満足度も高いものとなった。また、今後特別支援教育に造詣の深い大学教授を講師に招いて指定校職員を対象とした研修会を予定しており、さらに専門的な見地から学校へのアドバイス

をもらえるものと期待している。

また、全特連山口大会や九特連大分大会へ指定校職員を派遣することができた。それぞれの学校で研修報告会も開催しており、先進校の取組を知ることで、教職員の意識の向上と特別支援教育の理解を深めるのに役立った。

(5) 特別支援教育の視点を踏まえた環境整備と指導方法の工夫・改善を図る。

環境整備には大別して人的な側面と物的な側面があると考え。まず、人的な側面の取組の効果として学校経営構築研究開発事業運営協議会（嬉野市子ども支援連携会議）を開催したことで、研究の進め方や方策についてある程度の理解がすすんだことと、外部機関からの参加者との関係性を構築できたことが挙げられる。それまで、例えば療育支援センターの名前は聞いたことがあっても、どんな人がどんな仕事をしているかを知る機会はなかったが、会議の場で紹介していただいたことにより、敷居が低くなった。

物的な側面として、本事業で図書を購入し、教職員が専門的な知識を得ることができたり、遠方の研修会へ参加し、そこで得た情報を学校へ持ち帰り、全体の場で共有できたことなどが挙げられる。

## 5. 教育委員会及び指定校における取組概要

### ① 専門家を活用した学校経営計画等の策定

#### (1) 教育委員会の取組

##### ア 3名の学校経営スーパーバイザーの選任及び配置

###### ・佐賀大学教育学部教授

特別支援教育の専門家であり、大局的な視点から学校運営体制についての指導・助言をいただいた。また、年2回の学校運営構築研究開発事業運営協議会委員を務め、学校経営に対する評価をいただいた。

###### ・元校長（他市の教育委員会特別支援教育担当経験者）

月2回程度の頻度で嬉野小学校、嬉野中学校を訪問し、管理職の視点から学校運営体制についての指導・助言をいただくとともに教員の専門性を高めるための指導・助言をいただいた。また、年2回の学校運営構築研究開発事業運営協議会委員を務め、学校経営に対する評価をいただいた。

###### ・元小学校教員（特別支援教育担当経験者）

週2回程度の頻度で嬉野小学校、嬉野中学校を訪問し、特別支援教育に関わった経験を生かし、児童生徒の見取りや適切な支援の在り方等、教員の指導力向上のための指導・助言をいただいた。また、年2回の学校運営構築研究開発事業運営協議会委員を務め、学校経営に対する評価をいただいた。

##### イ 学校運営構築研究開発事業運営協議会（嬉野市子ども支援連携会議）の設置

・特別支援教育の視点から学校運営構築に寄与するために、嬉野市子ども支援連携会議を設置した。この会議では、本事業の取組の計画、運営、評価を行うものとした。構成委員は次のとおりで合計20名である。年2回の開催とし、今年度は1回目を8月に開催し、2回目を2月に開催予定である。

・嬉野市子ども支援連携会議には、外部機関との連携を図るため、臨床心理士、言語聴覚士、特別支援学校教員、特別支援学級在籍児童生徒をもつ保護者、教育事務所指導主事、学校関係者等に参加していただいた。

No.	所属・職名	備考
1	佐賀大学教育学部・教授	特別支援教育専門
2	特別支援学校・元校長	教員免許
3	小学校・元教員	教員免許
4	スクールカウンセラー・2名	臨床心理士
5	くろかみ学園児童発達支援センター・職員	言語聴覚士
6	特別支援学校・教員	特別支援学校教諭免許
7	保護者代表・2名	
8	県教育委員会（西部教育事務所）・指導主事	特別支援教育担当
9	早期支援コーディネーター	教員免許、保育士資格
10	各学校（校長・特別支援教育コーディネーター等）	教員免許
11	嬉野市教育委員会（教育長・課長・指導主事）	教員免許

## (2) 指定校の取組

### 【嬉野小学校】

#### ア 学校経営スーパーバイザー（以下学校経営SV）による学校への訪問

週2回の元小学校教諭、月に2回の元校長による学校への訪問は、指定校にとって最も役立つ取組となった。学校経営計画策定のための訪問であったが、まずは嬉野小学校の特別支援教育に関して授業観察をお願いした。最初は教頭と一緒に授業の様子を見ていただいたが、慣れると自分から見て、支援の必要な児童児声をかけてもらったり、特別支援教育支援員へのアドバイスをいただいたりした。両名の学校経営SVの温厚で包容力のある人柄から児童とも気軽に話をしていただき、学校としては非常に助かった。アドバイスも的を射ており、教職員にとっては即実践できることの示唆を得ることができた。

#### イ 学校経営計画等の策定

嬉野小学校の年度当初の学校経営計画には、特別支援教育の推進が「一人一人のニーズに対応した個別指導の充実」という項目で掲げてあり、教職員の意識を向上させ、特別支援教育の充実を図り、支援が必要な児童への支援体制を確立するという具体的な項目が明記されている。これまでの学校経営SV配置の効果として、校内の特別支援部会や、学年主任会等へも参加していただき、学習規律や授業の進め方等、積極的に助言をいただくことができるようになったことが挙げられる。

しかし、外部機関の連携や校内の支援体制等の整備が不十分なため、このような組織整備が学校経営計画策定に係る当面の課題である。

### 【嬉野中学校】

#### ア 特別支援教育に係る校内部会の設定

これまで嬉野中学校では、支援を要する生徒の共通理解を図ったり、支援の方針を決定する場として、月2回の教育相談部会、月1回の生徒指導協議会、職員会議で気になる生徒の共通理解を図ることが行われていた。今回、学校経営SVを活用して、第3水曜日に特別支援教育部会を持つことになった。これには学校経営SVも参加するため、どのような支援をすべきか迷う場合でも、適切なアドバイスを得ることができるため、職員にとっても有意義な部会となっている。さらに全職員を対象に、特別支援教育に関する校内研修を開催し、学校経営SVから学級担任に対する個別の対応や、授業巡回で気になったことの報告等、役に立つ助言をいただいた。

[アドバイスの一例]

- ・授業で教員がしゃべりすぎて子供にとって情報過多になっている。
- ・特別支援教育支援員への適切な指示を教員が行うべきである。
- ・学校に出入りするいろいろな立場のスタッフとの情報交換をすべきである。後

に必ずフィードバックしてもらえます。等

#### イ 学校経営計画等の策定

嬉野中学校のこれまでの学校経営計画には、特に特別支援教育の視点をもとにした項目や目標が挙げられていなかった。困り感を持つ生徒がいることは分かっていたが、問題行動や不登校に係る生徒指導上の課題解決のために多くの時間が割かれ、特別支援教育の視点を持った指導については後回しになっていた。しかし、学校経営SVを配置し、校内の特別支援部会や校内研修に参加していただいたことで、学習規律や授業の進め方等、積極的に助言が得られ、職員の意識の向上が見られるようになった。今後策定する学校経営計画には、授業のUD化を含め、特別支援教育について盛り込まれることになった。

### (3) 主な成果

#### ア 教職員の理解啓発

個々の教職員がこれまで行っていた指導が、意識はしていなかったが特別支援教育の視点を持っていたり、UD化に役に立つ指導であったりしたことに気づいたことで、これからの実践への意欲が高まった。特別な配慮を要する子供に限らず、周りの人の行動を目にしても自分と結びつけて考えることができなかつたり、一つのことから他のことを察することが苦手だつたりする子供が少なからずいる。そういう子供には、会話や話し合いの中で常識や社会性を身につけていくことは困難なので、当たり前のことでも一つ一つ丁寧に説明していく指導が必要であることが分かってきた。このことは、今後これらの子供を理解するうえで、非常に役に立つことと考える。

#### イ 学校経営SVの有効性

本事業で、学校経営SVを配置しているが、彼らが指定校での特別支援教育の在り方に寄与する部分は非常に大きい。例を挙げると、新たな部会の開催や教職員への適切な助言・アドバイス、これからの課題となる部分の洗い出し等に取り組んでいただいております、特別支援教育の充実に向けてさまざまな面で有効であると考えている。その専門性の高さから教職員も納得する部分が多く、実益のある研修や部会が開催できていることに感謝したい。

## ② 合理的配慮の提供に係る体制整備の在り方

### (1) 教育委員会の取組

#### ア 就学相談の充実

嬉野市では、平成 26 年度から「早期からの教育相談体制」を強化してきた。早期支援コーディネーターを配置し、支援の必要な子供の就学等について関係各課との連携や市内にある幼稚園・保育所・認定こども園との連携、嬉野温泉病院、嬉野医療センター等の医療機関との連携、県立うれしの特別支援学校等との連携を深めている。また、気になる子供の保護者向けに、従来の年 2 回の年長児対象「就学相談」に加え、年中児対象の「子育て相談会」を平成 26 年度より開始した。就学相談申込は本年度合計 58 件 (H26 は 20 件)、子育て相談会申込みは 25 件 (H26 は 10 件) となり、開始以来相談件数は増えている。早期からの相談を行うことにより、保護者の理解を得るきっかけとなっており、最適な就学先の選択など効果が大きいことが明らかになった。小学校側としても、就学時にどのような支援を提供すればよいかを想定でき、双方にとって有意義なものとなっている。

#### イ 保護者による小学校特別支援学級や通級指導教室の見学

知的障害や発達障害の子供をもつ親にとって、これから就学する小学校がどのようなところでどのような支援を行っているかは気になるところである。そこで、本年度就学相談に参加された保護者や、新入学児健康診断で相談を希望された保護者に対し、小学校の見学を勧めた。見学の際は各学校の特別支援教育コーディネーターが対応し授業の様子や教室を紹介した。これは保護者にも好評で、「入学前に見学できてよかった。」「どんなところが不安だったが安心した。」等、よい評価をいただくことができた。

#### ウ 嬉野市特別支援教育部会の開催

嬉野市内学校の特別支援教育コーディネーターで構成する特別支援教育部会を開催し、県の特別支援教育スーパーティーチャーを講師に迎え、合理的配慮決定のプロセスやその内容と実施方法についての研修を深めた。合理的配慮の提供についての研究・実践はまだこれからだが、教職員の研修を進めていくことの必要性を共通理解した。

### (2) 指定校の取組

#### 【嬉野小学校】

#### ア 支援を要する児童の状況把握

嬉野市では幼稚園・保育所・認定こども園と小学校をつなぐ手立てとして、早期支援コーディネーターや教育相談員が幼稚園・保育所・認定こども園を訪問し情報収集を行い小学校へ伝えることの外に、支援を要する子供個人の「引継シート」を作成し、移行支援会議を開催する等、幼稚園・保育所・認定こども園から小学校への引継ぎ体制作りに取り組んでいる。これらのことにより、小学校では入学時にどのような支援が必要かある程度、情報を得ることができている。

## イ 教育のユニバーサルデザイン化の取組

多くの子供たちにとって、わかりやすい、学びやすい教育のデザインを目指して、通常学級での教育のユニバーサルデザイン化（以下UD化）に取り組みはじめた。まだ研究の初期段階ではあるが、校内研修でなぜUD化が必要なのかを学び、研究を進めている。教育のUD化にあたっては、教室環境を整えるだけでなく、学級の間人関係を豊かにするという視点を持ち、子供たちの学び合いが深まるような雰囲気をつくっていくことが大事であるが、一朝一夕には確立できないため、まずは教室環境のUD化を図ることからはじめ、授業のUD化へとつなげていきたいと考えている。

## ウ 児童の困り感を軽減するために

発達障害やその傾向のある児童に対し、特別支援コーディネーターの見とみや特別支援教育支援員の情報から、児童の困っている状況を改善すべく、積極的に配慮を行った。

### 〔事例①〕 教室に入れないE児の例

発達障害の傾向のあるE児は、突然暴れ出したり教室から抜け出したりするようになった。話をよく聞くと授業内容についていけないことがあり、居場所がないと感じているようであった。そこで、母親とも相談した上で、空き教室にパーティションで仕切った個別の「元気ルーム」をつくり、授業によっては特別教育支援員と勉強することにした。その後、E児は落ち着いて学習できるようになった。

### 〔事例②〕 特別支援学級担任が出張で不在のとき

自閉症・情緒学級の子供の中には、急な予定変更に対応できず落ち着きをなくす子供も多い。そこで担任が出張等でいないとき、出かける前に黒板に、どこへ行くのか、何時に帰るのか、いない間どんな学習をしてほしいのか等をしっかり残しておく。その板書を見ると子供が見通しをもって担任不在の間を過ごせるような工夫をしている。

## 【嬉野中学校】

### ア 校内研修による教職員の意識向上

学校経営SVの主導で、校内特別支援教育部会を開催した。どのような困り感を持つ生徒がいるか状況を把握して、その対応について協議することができた。その都度、学校経営SVからの指導もあり、教職員も日々の授業で特別支援教育の視点を持つことの大切さを実感することができるようになってきた。

また、研究授業の後の研究会でも、発達障害の傾向のある子供の観察を行いどのような情報の提示をした方がよいのかが、議論されることもあり、これまでになかった支援や配慮についての意見が出されるようになってきた。

#### イ 授業のユニバーサルデザイン化を目指して

特別支援教育コーディネーターや研究主任を中心に授業のUD化に取り組みはじめた。例えば、授業のめあてをしっかりと板書することや、学習の見通しをもたせるためにその授業での活動内容を最初に知らせるといったことは、どの授業でも職員は共通して実践している。しかし、実はこれらのことが教員が意識せずに行っているUD的な授業の工夫であるということ意識化することも大切である。授業のUD化が些細な工夫から始まることを認識して、今後の取組を進めていきたい。

#### ウ 合理的な配慮の提供

発達障害のある生徒が通常学級で学ぶ場合、彼らに対してさまざまな配慮が必要となる。これまでこの配慮は、学級担任や教科担任が実施していたが、配慮の視点や内容は系統立てて整理されているわけではなかった。そこで、個別に配慮を行うためにそれらをどう決定していくのか研修を行った。

その結果、特別支援教育コーディネーターが中心となること、本人のニーズを確認すること、保護者と内容を協議すること、実施後の評価を行うこと等が重要であることを整理することができた。ただし、現時点では、教職員の認識を深める段階であり、合理的配慮の提供体制はこれからの課題となっている。

#### 〔事例③〕 時間割の入れ替え

発達障害のあるM男は、自分のペースでしか動くことができず、朝通常の時間に登校することが難しい。そのため2時間目の終わり頃登校してくることが多い。M男のクラスでは週に1時間しかない美術の授業が、1時間目に組み込まれているため、M男は美術の授業を受けることができていなかった。そこで、美術の授業を受けることができるよう1時間目と3時間目を入れ替えて実施するようにした

③ 発達障害等の可能性のある幼児児童生徒を取り巻くいじめの防止、不登校対策等の生徒指導上の学校課題に対する体制整備の在り方

(1) 教育委員会の取組

ア いじめの防止について

- ・各学校にいじめの覚知、認知の事案があれば速やかに報告するよう通達している。平成 29 年度の市内小・中学校いじめ発生件数（認知したもの）は 23 件であり、昨年度より増加している。このうち、発達障害等の可能性のある児童生徒が加害者または被害者となった事案が数件ある。
- ・平成 27 年度から「いじめ問題等発生防止支援部会」を立ち上げ、年間 3 回の研修会を行いいじめ防止に関する研修や各学校の取組の情報共有を行っている。
- ・学校ごとに「いじめ防止対策委員会」を組織し、それぞれ年間 2 回開催している。委員は地域住民等、学校関係者で構成し市教育委員会から委嘱状を交付している。どの学校の委員会にも、市教育委員会からも担当者が参加している。

イ 不登校対策について

- ・平成 30 年 3 月末現在の市内小・中学校不登校児童生徒（欠席 30 日以上）は、小学校は 4 名、中学校は 17 名である。平成 26 年度から毎年増加傾向にある。
- ・国や県のスクールカウンセラー配置事業により、どの学校にもスクールカウンセラーを配置している。嬉野市のスクールカウンセラーは、全て友朋会嬉野温泉病院に勤務している精神科医、臨床心理士、社会福祉士であり、のべ 14 名のスタッフによる専門的なカウンセリングを行うことのできる体制となっており、恵まれた環境にある。
- ・嬉野市では、佐賀県スクールソーシャルワーカー 1 名を塩田中学校に、嬉野市スクールソーシャルワーカー 1 名を嬉野中学校に拠点校方式で配置している。不登校児童生徒本人や保護者、学校、外部機関との連携を取っていただいております、不登校対策の大きな力となっている。
- ・教育相談員 3 名及び心の教室相談員 3 名を市内小・中学校に配置している。学校で気になる発達障害等の可能性のある児童生徒の観察やその対応、不登校児童生徒への対応等、それぞれがこれまでの経験を生かして業務にあたっている。教育相談員 3 名は、嬉野市就学支援委員会や小学校新入学児健康診断にも参加し、情報収集や個別の対応を行っている。
- ・不登校児童生徒の対応として、適応指導教室「あさがお」と「ひまわり」の 2 教室を開設している。適応指導教室にはそれぞれ専門スタッフが常駐し、児童生徒の対応以外にも保護者等の相談も受け付けている。
- ・相談員、スクールソーシャルワーカー、適応指導教室指導員に市教育委員会担当を加えたスタッフによる教育相談連絡会を月に 1 回開催し、市内学校の現状把握と情報共有を行っている。

(2) 指定校の取組

### 【嬉野小学校】

#### ア 生活指導が必要な児童への配慮

今年度、嬉野小学校の不登校者数（30日以上欠席者）は3名であった。いずれも登校時は教室に入ることができており、登校時に特別な対策を取っているわけではないが、管理職をはじめ教育相談担当者や養護教諭が関わり、児童が安心して登校できるような配慮をしている。家庭とも連絡を密にしている。

また、いじめの認知件数は3件であるが、これまで発達障害の傾向がある児童が関わったケースはない。担任や生活指導担当の迅速な対応が取られており、早期の解決が図られている。いじめアンケートについては年間4回実施しており、気になる事項があればすぐに管理職を含め聞き取りを行っている。また、教育相談週間を設けて児童間の問題の早期発見に努めている。

不登校やいじめにしても職員が連携して対応しており、チームとして関わることができている。

### 【嬉野中学校】

#### ア いじめ防止に関して

年間2回、いじめ防止対策検討委員会を開催し、いじめの防止及び早期発見に努めている。いじめアンケートも年間4回実施しており、気になるものについては、全員に対して聞き取り調査を行っている。今年度のいじめ発生件数（認知したもの）は4件で、いずれも早期に対応できた。

#### イ 不登校対策に関して

嬉野市では、ここ3年不登校者数がわずかながら増加している。嬉野中学校は、今年度末までの不登校者数（30日以上欠席）は、13名（嬉野市計17名）であり、他の中学校に比べて突出している。対策として、SC、SSW、教育相談員等を配置し、教育相談担当職員との連携を取り対応している。不登校者の中には発達障害の疑いのある生徒が数名含まれており、学習の遅れや友人関係をうまく構築できなかったケースもある。

そこで、嬉野中学校では今年度、校内適応指導教室の設置を行った。教室に入れず、保健室で過ごす生徒が増えてきたため、空き教室を活用し、パーティションで仕切られたスペースを割り当てて自分だけのスペースで過ごせるようにし、空き時間の教員を割り当て、学習指導を行っている。この校内適応指導教室は5年前にもあったが不登校者数の減少とともに開設していなかったもので、当時のノウハウを活用して、今回の開設を行ったものである。

(3) 主な成果

発達障害の子供は、周囲とコミュニケーションを取ることが苦手なこともあり、人間関係を構築することが難しいので、不登校となる可能性が高いといわれる。実際に不登校児童生徒への支援を行うに当たっては、不登校児童生徒やその保護者等とよく話し合うことで支援のニーズを把握し、個々の児童生徒の要因に応じた効果的な支援策を講じることが求められる。その際に大切なのは、決して担任が一人で抱え込むのではなく、学校が組織的に対応することが重要である。嬉野中学校の場合、担任以外に、教育相談担当、養護教諭、管理職、SSW等それぞれが連携しながら対応している。さらに学校経営SVの指導を受け、より効果的な対応を行うことができている。さらに学校経営SVからは、「必要があれば発達障害の生徒の保護者対応は引き受けてもよい。」との言葉もいただき心強いばかりである。

また、いじめの対策については、発達障害やその疑いのある児童生徒が被害者や加害者となった場合は、特別支援教育コーディネーターや特別支援学級担当者等もチームに加わり対応する態勢をとるようにした。

④ 特別支援教育コーディネーターの活動状況

【嬉野小学校・嬉野中学校共通】

- (1) 指名している人数  
教諭 1 名（特別支援学級担任）
- (2) 具体的な職務内容
  - ア 支援が必要な児童の状況把握
  - イ 就学相談に係る資料作成等の業務
  - ウ 特別支援教育支援員のコーディネート
  - エ 週 1 回のサンサンミーティングの開催（嬉野小学校）
  - オ 関係機関との連絡・調整
  - カ 児童、保護者、担任との相談
- (3) 職務に従事する月平均時間数  
およそ 20 時間
- (4) 人選方法や求められる資質・技能
  - ア 人選方法  
特別支援学級担任と通級指導教室担当者の中から校長が指名する。
  - イ 求められる資質・技能
    - ・協力関係を推進するための情報収集、情報共有
    - ・交渉力や人間関係調整力
    - ・障害のある児童の発達や障害全般に関する知識
    - ・個別の指導計画の作成・実施・評価及び教育支援計画の作成
    - ・保護者や関係機関との信頼関係の構築
- (5) 通常の役職、任期
  - ・通常は特別支援学級担任として業務にあたる。
  - ・任期は 1 年で再任を妨げない。
- (6) 育成のための教育委員会の取組
  - ア 佐賀県教育委員会が主催する特別支援教育コーディネータースキルアップ研修の履修を義務づけている。また、この研修には、コーディネーター以外の職員の参加についても、可能な限りの参加を推奨している。
  - イ 市内の特別支援教育部会を開催し、特別支援教育コーディネーターに学校代表として参加してもらい、講演会、事例報告会やグループ協議等の研修を行っている。
- (7) 成果と課題
  - ・特別支援教育コーディネーターを経験したことのない教職員にとって、コーディネーターの業務内容やその責任について知る機会もあまりなかったが、研修を通して理解がすすみ、よい関係性ができつつある。
  - ・特別支援教育コーディネーターの担当授業時間数は、嬉野小学校で 28 時間、嬉野中学校で 18 時間である。中学校コーディネーターは、全ての家庭科の授業を担当している。2 名とも校内で軽減している職務内容は特にないため、コーディネーターの業務は多忙を極めている。今後、職務内容の軽減を含め、時間的な余裕を生み出す工夫が必要である。

## 6. 今後の課題と対応

・本事業の実施により学校経営構築研究開発事業運営協議会（嬉野市子ども支援連携会議）を開催することができた。さまざまな立場から特別支援教育の視点を踏まえた取組に対し、意見をいただくことができたのは大きかった。しかし、さらに効果的に連携会議を運用するとともに、横のつながりを大事にした継続的な支援が受けられるようにしたい。具体的には、年2回の会議のときだけではなく、校内研修や日常的な実践に支援連携会議の意見を反映させるような工夫が必要である。

・本事業により、全特連山口大会や九特連大分大会へ指定校職員を派遣することができた。それぞれの学校で研修報告会も開催しており、先進校の取組を知ることで、教職員の意識の向上と特別支援教育の理解を深めるのに役立っていた。また、今後大学教授の講演会や佐賀県特別支援教育スーパーティーチャーの研修会も予定しており、さらに専門性や指導力の向上に努めていきたいと考える。

・学校経営SVの配置はもっとも効果的な取組であった。各指定校の状況を見て、気になるところへの指導や助言をいただき、また、研修会等での講師として活躍いただいた。しかし、学校経営SVと教育委員会の連携が不足した側面もあった。勤務記録による業務実績確認の外に、日常的に連絡を取り合う体制をつくりたい。

## 7. 指定校について

(小学校)

指定校名：嬉野市立嬉野小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	67	2	88	3	64	2	71	2	54	2	70	2
特別支援学級	5	2	3	2	1	1	2	2	4	1	0	1
通級による指導 (対象者数)	2	2	5	2	8	2	3	2	5	2	2	2
	校長	副校長 ・教頭	主任教諭 指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	講師	事務職員	特別支援教育 支援員	スクール カウンセ ラー	その他	計
教職員数	1	1	1	21	1	0	3	2	3	1	3	37

※特別支援教育コーディネーターの配置人数：1名

※特別支援学級の対象としている障害種：知的障害 2、自閉症・情緒障害 1

※通級による指導の対象としている障害種：言語 2

(中学校)

指定校名：嬉野市立嬉野中学校												
	第1学年				第2学年				第3学年			
	生徒数		学級数		生徒数		学級数		生徒数		学級数	
通常の学級	112		4		118		3		108		3	
特別支援学級	0		0		2		2		5		2	
通級による指導 (対象者数)	3		1		5		1		1		1	
	校長	副校長 ・教頭	主任教諭 指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	講師	事務職員	特別支援教育 支援員	スクール カウンセ ラー	その他	計
教職員数	1	1	2	19	1	1	4	1	1	1	2	34

※特別支援教育コーディネーターの配置人数：1名

※特別支援学級の対象としている障害種：知的障害 1、自閉症・情緒障害 1、病弱 1

※通級による指導の対象としている障害種：LD/ADHD 1

## 8. 問い合わせ先

組織名：嬉野市教育委員会

- |             |                                 |
|-------------|---------------------------------|
| (1) 担当部署    | 嬉野市教育委員会 学校教育課                  |
| (2) 所在地     | 佐賀県嬉野市塩田町大字馬場下甲 1769 番地         |
| (3) 電話番号    | 0954-66-9128                    |
| (4) FAX 番号  | 0954-66-5676                    |
| (5) メールアドレス | muto-satoru@city.ureshino.lg.jp |